

平成27年度発掘調査遺跡の紹介

おか え 丘 江 遺 跡 (柏崎市田塚3丁目地内ほか)

丘江遺跡は、鯖石川左岸、標高6～7mの扇状地末端の微高地に立地する中・近世の集落です。国道8号柏崎バイパスの建設に伴い、昨年度に引き続き4月から発掘調査を行っています。今年度は4か所の調査区（4～7区）を調査しています。その結果中世（13～15世紀）の掘立柱建物・土坑・井戸・溝などを検出し、広範囲に集落が営まれていたことが分かりました。一部、近世（17世紀～18世紀）の遺構や遺物も出土しています。

7区では幅16mもある流路の川岸で、石材を用いて構築した階段状施設を検出しました。一部の石材は五輪塔を二次利用しており、梵字が刻まれているものもありました。階段として利用しやすいように、地輪と呼ばれる立方体の石を丁寧に並べてあり、川への昇降に利用したと考えられます。階段状施設の北側では掘立柱建物を1棟検出しました。この建物は1間×2間(4.5m×10m)で柱穴が大きく、また柱間が長いことから、ほかの建物よりも大型の建物であったと推測しています。

4区では掘立柱建物と井戸を複数検出しています。建物の柱穴は、隣接または重なり合うものが多いことから、建て替えや新築を繰り返していたと考えられます。井戸は10基ほどあり、深さは1.2m～2m前後とさまざまですが、全て井戸側を持たない素掘りの井戸です。

遺物は、中世の珠洲焼や瀬戸焼・土師質土器・青磁、石臼・砥石などの石製品、曲物・箸といった木製品、宋銭・鉄釘・刀子などの金属製品、近世の唐津焼などの肥前系陶磁器が出土しています。昨年度に比べ、今年度の調査では金属製品が多く出土していることが特徴です。今後、北側に近在する同時期の集落である山崎遺跡との関連を検討することで、柏崎地域の中世・近世の集落の様相がより一層明らかになるものと考えられます。

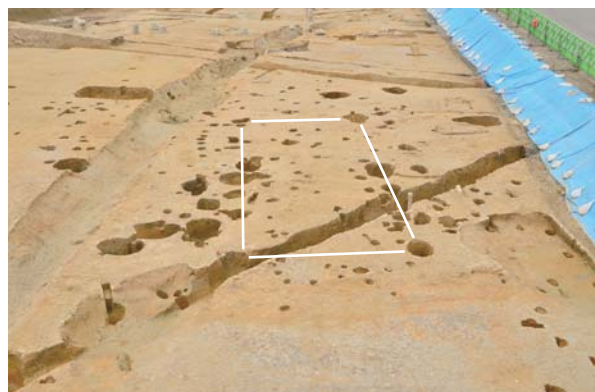
(株吉田建設 不破野希春)



7区全景(北から、正面奥が米山)



7区流路階段状施設(南から)



7区大型掘立柱建物SB6014(東から)

山崎遺跡

(柏崎市大字藤井字山崎地内ほか)

山崎遺跡は柏崎平野中央部の鯖石川下流域に形成された扇状地に立地します。発掘調査は国道8号柏崎バイパス事業に伴い平成22年から実施しています。3年目となる平成27年度は、約5,820㎡を調査しています。遺跡は現地表面から約1.5m下の標高5.6～4.9mの深さにあります。これまでの調査で鎌倉時代から室町時代の集落の様子が明らかになっています。平成27年度調査では、さらに土塁や水田が見つかりました。

土塁は全長65mで南北方向へ直線的に伸びています。調査の結果、3時期にわたり盛土が繰り返され、室町時代(高さ1.2m)・江戸時代(高さ2.5m)・現代(高さ4.8m)と次第に高くなったことが分かりました。土塁が築かれる前には、集落が営まれており、土塁の下からは柱穴や井戸が見つかります。柱穴配置の方向性から、掘立柱建物は南北方向の長軸が多く、複数棟あると言えます。また、この集落は平成26年度調査分の広がりと考えられます。

水田は、長辺が約15mの長方形が多く、およそ南北軸に沿っています。水田の脇には幅1.0～1.8mの畦畔があり、部分的に幅50cmの水口が見られます。流下方向は検討中ですが、地形の傾きから判断して、およそ北東から南西に向かうことが推定できます。また水田の周辺には、当時の人々が意図的に埋めた土坑も見つかりました。水田に伴う溝からは、珠洲焼や土師質土器(鎌倉～室町時代)、銅製筭(髪結具)や肥前系陶磁器(江戸時代)などが出土しています。このことから水田は鎌倉時代から江戸時代にいたるまで断続的に使用されたことが推定できます。微高地で集落が営まれていた間、低地で水田が耕作された様子がうかがえます。

水田は近隣において、宝田遺跡や小峯遺跡、丘江遺跡、下沖北遺跡で検出例があります。特に北500mに立地し、時期が同じである宝田遺跡は、区画や方向性などを比較・検討できます。また現在調査中の掘立柱建物など集落については、平成26年度の調査成果を踏まえた上で、今後検討する予定です。

(藤村ヒューム管株式会社 松本吉弘)



遺跡近景(北から)



室町時代の土塁 検出状況(南西から)



掘立柱建物 検出状況(南東から)



水田 完掘状況(西から)

さかい づか 境塚遺跡

(阿賀野市百津字境塚16-1ほか)

遺跡はJR水原駅の南西1kmに位置し、旧阿賀野川右岸に形成された標高7mの自然堤防上に立地します。国道49号阿賀野バイパス建設に伴って平成27年4月から調査を行っており、調査面積約7,300㎡です。

調査の結果、鎌倉時代(13世紀後半～14世紀前半)を中心とし、室町時代(14世紀後半～15世紀初頭)にかけての遺構・遺物が見つかりました。遺跡中央を小河川が南北に流れ、遺跡の南側には阿賀野川の旧河道である旧百津瀉があったと考えられます。平成21・26・27年度の調査結果を総合すると、東西400mの範囲に西側から幹線道路を基軸とした町場エリア・小河川に隣接する流通エリア・堀で囲まれた居館エリアの3つのエリアが存在していたと想定されます。



図1 調査範囲全景(南東から)

町場エリアは幹線道路の両側に掘立柱建物や井戸などが分布する範囲です。平成21年度に見つかった幹線道路は、路面幅約6m、側溝を含めた幅は約10mで、13～14世紀の道としては県内で最大級です。平成27年度は幹線道路の西側の調査を行い、幹線道路から西に直角に分岐する幅2mの道(図1左)に沿って掘立柱建物8棟・井戸19基・堀1条・方形周溝状遺構1基・方形堅穴遺構1基・溝6条などが見つかりました。掘立柱建物は長さ約12m・幅約8mの二面廂付のものがあり、幅約30cmの角柱が用いられています(図1右)。隣接する井戸からは大量の土師質土器皿・小皿が出土し、ある程度高い階層に属する人物が宴会儀礼を行った後にまとめて捨てた可能性が考えられます(図2)。また、方形周溝状遺構は幅3m・深さ1.2mの溝が巡る大規模なものです。内部に建物は確認できませんが、お堂などの宗教施設と推定されます(図3)。方形堅穴遺構は深さ約2.5mあり、人為的に埋め戻されています。底面に床を確認できることから、地下蔵の可能性がります。

当遺跡は大規模な幹線道路を利用した陸上交通と、阿賀野川に通じる百津瀉を利用した河川交通との結節点に成立した町と考えられます。この背景には流通の促進とその掌握があったものと推定されます。こうした大規模な開発を行えたのは、中世白河荘の地頭職を得て入部した伊豆国の大見氏の可能性が高いと考えられます。これまでの阿賀野バイパス関係の発掘調査によって、村前東A遺跡から境塚遺跡までの東西約2kmにわたり13世紀後半から14世紀前半の遺跡が断続的に続くことが分かりました。境塚遺跡とほかの遺跡とでは集落の規模や遺構の種類に違いが認められることから、集落の性格が異なると考えられます。阿賀野市内の各遺跡の調査成果を基に中世白河荘の開発と景観を具体的に復元することが期待されます。(荒川隆史)



図2 皿・小皿が大量に出土した井戸(長さ約2.5m)



図3 大規模な方形周溝状遺構(長さ約12.7m)

平成27年度企画展「^{だいぶ}谷底からよみがえった大武遺跡」を開催中

新潟県教育委員会が発掘調査した長岡市（旧和島村）大武遺跡の出土品を遺跡の写真とともに展示しています。大武遺跡には深さ約6mの谷があり、ここに縄文時代から中世にいたる人々の残した遺構、土器や石器などの遺物が大量に埋まっていました。これらの遺構・遺物をとおして、人々の暮らしの変化を概観します。

■企画展

会 期：平成27年7月18日（土）～平成28年1月24日（日）
（年末年始（12月29日～1月3日）は休館）

会 場：新潟県埋蔵文化財センター（新潟市秋葉区金津93番地1）

開館時間 9：00～17：00 入館・観覧料：無 料

企画展と関連する展示解説会や講演会を下記のように実施します。是非、ご参加ください。

■展示解説会・体験コーナー

参加費無料!

回	期 日	解 説 会	体 験 コ ー ナ ー	
			時 間	内 容（予定）
3	10月17日（土）	10:30～11:30	10:00～12:00	勾玉作り（先着40個）
4	11月29日（日）	14:00～15:00	13:00～15:30	木簡風グリーティングカード作り（先着40個）

※定員なし。申込み不要。

■講演会 新潟県教育庁文化行政課主催の講演会と共通の「まいぶんスタンプラリー」対象イベントです。

回	日 程	タイトル・講師	定員	受 付
4	11月1日（日） 13:00～15:00	「稲作農耕文化の波及と地域性」 笹澤正史氏（株吉田建設）	80名	9/1～10/30
5	11月22日（日） 13:00～15:00	「大量のヒスイと玉作り」 田海義正（新潟県埋蔵文化財調査事業団）	80名	9/1～11/20
6	12月20日（日） 13:00～15:00	「大武遺跡の古墳時代」 滝沢規朗氏（新潟県教育庁文化行政課）	80名	9/1～12/18
申込方法	（公財）新潟県埋蔵文化財調査事業団に電話かファックスかメールのいずれかで、名前・住所・電話番号・聴講希望日を添えてお申込みください。受け付けは先着順で、定員になり次第締め切らせていただきます。 ■電話：0250-25-3981 ■FAX：0250-25-3986 ■メール：niigata@maibun.net			



まいぶんちゃん

県内の埋蔵文化財関係イベントを集約したパンフレット「新潟まいぶんナビ 秋冬号」が発行されます。詳しくは新潟県教育庁文化行政課ホームページをご覧ください。

【『新潟まいぶんナビ』お問い合わせ先】

新潟県文化行政課埋蔵文化財係

電 話：025-280-5620

<http://www.pref.niigata.lg.jp/bunkagyosei/>

■その他の「まいぶんスタンプラリー」対象イベント

新潟県考古学講演会

回	日 程	タイトル・講師	定員	受 付
2	10月25日（日） 10:50～15:00	「国県史跡にみる魚沼地方の中世城跡」 十日町情報館 十日町市教育委員会文化財課（電話：025-757-5531）	100名	9/1～10/23

※申込み必要。

企画展「谷底からよみがえった大武遺跡」の見どころ

■縄文時代から戦国時代の土器の移り変わり

縄文時代から戦国時代の土器を時代順に展示しています。土器は時代とともに姿形が変化していくので、遺跡の時代決定をするうえで重要な役割を果たします。また、影響を受けた地域の土器の形や文様が反映されるので交流のあった地域を考える手がかりとなります。そして煮炊きや貯蔵、時には祭祀に使用されたので、どのような種類の土器がどれくらいの数あるのかを知ることで、当時の生活の様子が浮かび上がってきます。

■玉作り

縄文時代前期の滑石製球状耳飾、弥生時代中期のヒスイ製勾玉・緑色凝灰岩製管玉の製作工程品があります。特にヒスイは20kg余りが出土しており、当時の遺跡では全国でも最多の量を誇ります。

■木製品

縄文時代後期には全国でも珍しい組み合わせ式斧柄があります。古墳時代は当時の水田から出土した鍬や鋤、堅杵・田下駄のほか、斧や櫛、浮子、弓などの日用品があります。鎌倉時代から戦国時代では除雪具のコスキが目を引きます。



組み合わせ式斧柄



弥生時代中期の土器(後列) ヒスイ製勾玉・緑色凝灰岩製管玉の工程品と工具(前列)



古墳時代の土器(左側後列)・農具などの木製品(左側前列)、鎌倉時代～戦国時代の土器と金属製品・木製品(右側)

県内の遺跡・遺物90

よ かわ なか みち
余川中道遺跡出土品255点

(平成26年3月25日 新潟県指定有形文化財(考古資料))

(遺跡所在地：南魚沼市余川字江端ほか 遺物保管：新潟県(新潟県埋蔵文化財センター))

余川中道遺跡は、魚野川の支流・平出川や近尾川により形成された扇状地に立地する、古墳時代中期から後期の集落です。国道17号六日町バイパス建設に伴い、新潟県埋蔵文化財調査事業団が平成15・21・25年度に発掘調査を実施しました。

平成15年度の調査では竪穴建物・土坑・焼土遺構・溝・川跡のほか、3m程度の範囲に土器が密集する土器集中遺構が12か所で検出されました。

遺物は土器・土製品・石製品・鉄製品があります。土器は土師器と須恵器に大別されます。土師器には食膳具(高杯・鉢・椀)、煮炊き用の甕・甑、貯蔵用の壺、祭祀用の小型埴・ミニチュア土器があり、土器集中遺構から出土した土器は完全な形に復元できるものが多いです。須恵器には食膳具(高杯・杯・蓋など)、貯蔵用の甕があり、本県ではあまり例のない古墳時代でも古い時期のもので、石製品には紡錘車・砥石のほか、大量の玉類・石製模造品があります。石製模造品とは、青銅・鉄やヒスイなどの材料で作られたものを、滑石などの加工しやすい柔らかい石材で形をまねて作ったものです。祭祀のときの供え物として使用されたようです。余川中道遺跡では剣形67点、勾玉形10点、円盤形8点があります。玉類には勾玉1点、算盤玉2点、臼玉1,681点などがあります。石製模造品の多くは土器集中遺構から出土していることから、これらを土器とともに意図的に集積するような祭祀が行われていたものと考えられます。鉄製品には刀子・鉄鏃などがあり、集落遺跡出土品としては希少な事例です。

余川中道遺跡の西側にある県指定史跡飯綱山古墳群・蟻子山古墳群は、当遺跡と存続時期が一致します。このことから当遺跡は古墳の造営に関わった人々の集落であると考えられます。平成21・25年度の調査では同時期の水田も検出されていることから、山側の高いほうから低地へ向かって、古墳群、集落、祭祀の場、水田が広がっていたことが分かります。

当県では古墳時代前期には越後平野・頸城平野など平野部に面した丘陵上に古墳が築かれますが、中期になると魚沼地域で古墳の築造が盛んになります。古墳の分布の変化は畿内政権の東国掌握が海岸部から内陸部へ変化したことを反映していると想定されます。当遺跡はそうした時代背景の中で成立した遺跡であるとともに、石製模造品を用いた集落祭祀が県内で最も顕著に認められることから、当時の社会状況を端的に示すものとして重要です。

当県では古墳時代前期には越後平野・頸城平野など平野部に面した丘陵上に古墳が築かれますが、中期になると魚沼地域で古墳の築造が盛んになります。古墳の分布の変化は畿内政権の東国掌握が海岸部から内陸部へ変化したことを反映していると想定されます。当遺跡はそうした時代背景の中で成立した遺跡であるとともに、石製模造品を用いた集落祭祀が県内で最も顕著に認められることから、当時の社会状況を端的に示すものとして重要です。

参考資料：『新潟県埋蔵文化財調査報告書第139集 余川中道遺跡Ⅰ』
[新潟県教育委員会・財団法人新潟県埋蔵文化財調査事業団2005]



勾玉(中央)と石製模造品(勾玉の長さ約3cm)

埋文にいがた No.92

発行 (公財)新潟県埋蔵文化財調査事業団
〒956-0845 新潟市秋葉区金津93番地1
TEL (0250) 25-3981
FAX (0250) 25-3986
E-mail: niigata@maibun.net
URL: http://www.maibun.net
印刷 阿部印刷株式会社